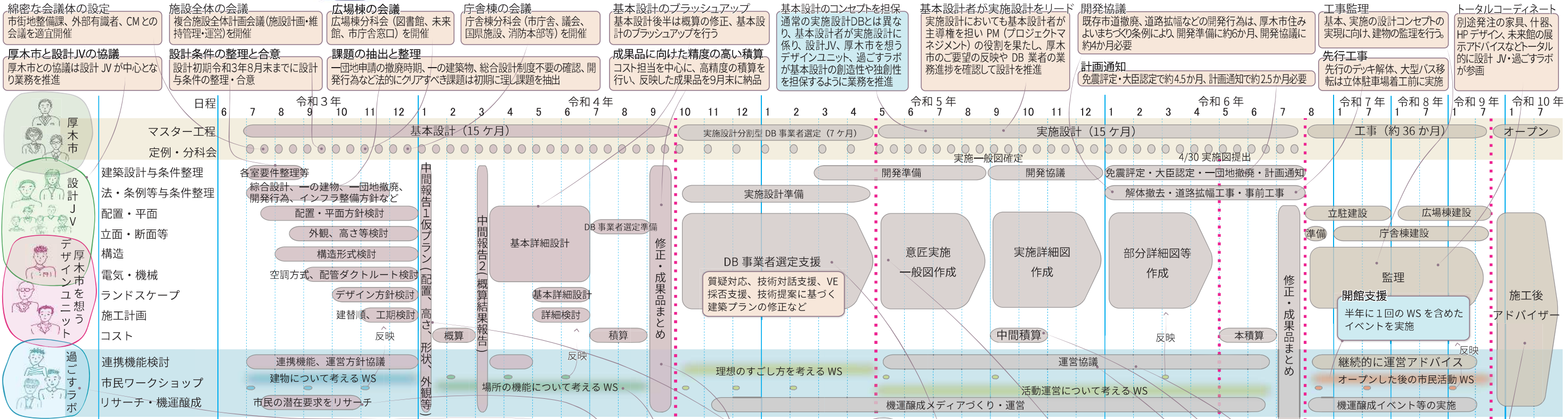
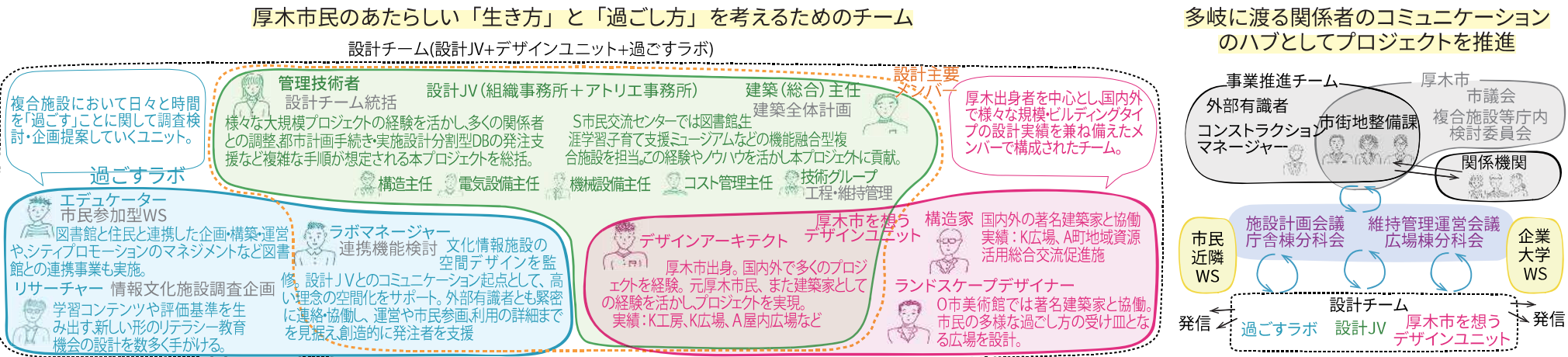
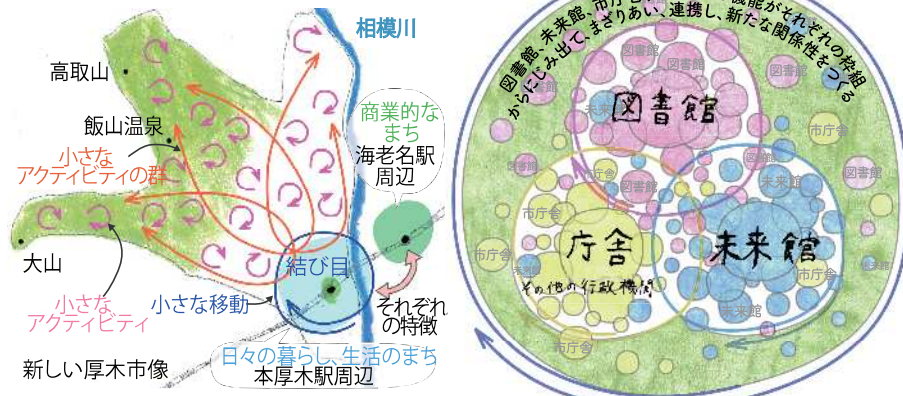


(第10-1号様式)
業務実施方針書 テーマ「設計業務の実施方針について」
2-2 地区を起点としてまちにあふれる「結び目」
それらが厚木のまち全体を活性化していく



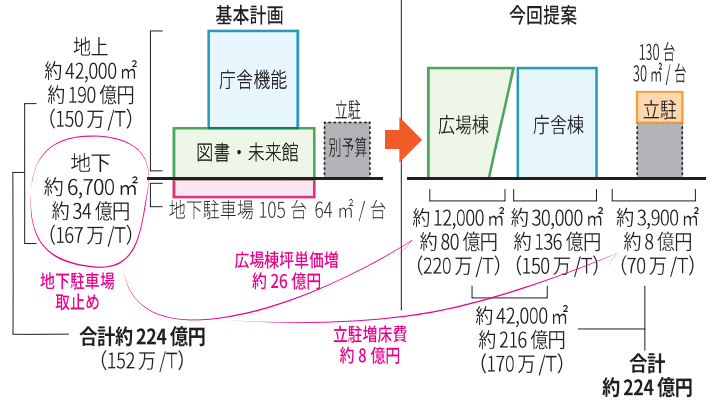
地下駐車場を取止め立体駐車場に集約することで総合設計を回避

- 基本計画での地下駐車場は一台当り約 64 m²と面積効率が良くないため、台数確保のためには多くの床面積が必要となり容積率が約 415%となっていました。
- 今回提案では一台当り約 30 m²で効率よく計画できる立体駐車場に集約し、延床面積を減らすことで容積率は約 391%で計画可能です。
- よって総合設計制度の容積UPの緩和を受けずに設計が可能です。

	延床	うち駐車場
庁舎棟+広場棟	42,000 m ²	0 m ²
保険福祉センター(30台)	11,400 m ²	2,000 m ²
立体駐車場(420台)	14,600 m ²	14,600 m ²
計	A:68,000 m ²	B:16,600 m ²
容積率緩和の上限 A/5	D:13,600 m ²	
A-B	C:51,400 m ²	
容積対象 C+B-D	54,400 m ²	
容積率	391%	<400%

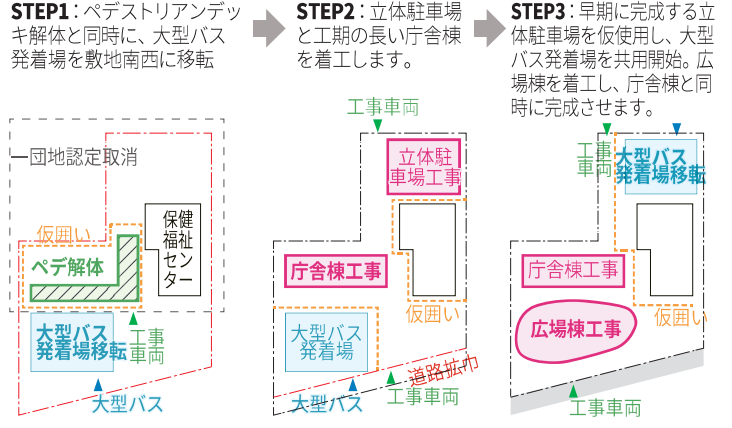
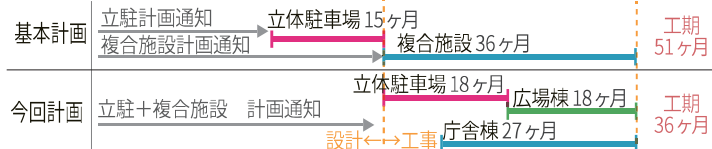
地下駐車場を取止めた合理的なコストコントロール

- 地下駐車場建設は、コストが増大するとともに効率的な駐車台数確保が困難です。また限られた敷地内に車路スロープが必要となり建築配置計画に大きく制約が出てきます。水害に対しても浸水の被害を受けることとなります。
- 単価の高い地下駐車場を取止め、坪単価が安く面積効率の高い立体駐車場に組み込むことをご提案します。
- 立体駐車場から庁舎棟へのアプローチは2階デッキを通り、雨に濡れずにアクセスできる屋根を設置します。
- 地下駐車場を取止めた工事費約 34 億円は、別途予算の立体駐車場建設費に約8億円加算することで約 130 台分を確保し、残りの約 26 億円は市民のためのスペースである広場棟建設費に充てます。



立体駐車場を含めた工事を約 36 ヶ月で完了

- 基本計画では実施設計期間中に先行して立体駐車場を完成させ、その後に複合施設 36 ヶ月の工事を予定していました。
- 今回提案では庁舎棟と広場棟を分け、着工時期をずらすことで立体駐車場を含めて約 36 ヶ月で工事を完了することができます。
- 基本計画では立体駐車場のみの単独敷地での計画でしたが、容積率の限度で面積、台数に制約がありました。今回提案では一体敷地での建設となり多くの台数が確保できます。



並べて結ぶ - あたらしい厚木の協働・挑戦・実践の場

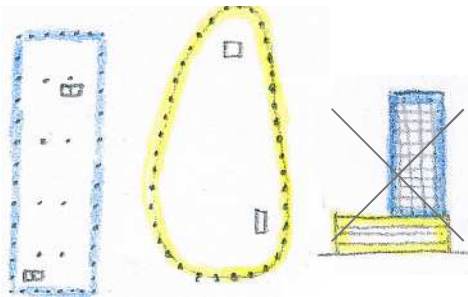
2-2地区は厚木市民にとってとても大切な場所です。
みんなが行き交い、出会い通り過ぎる場所です。

2-2地区という厚木のいろいろなアクティビティが重なりあう場所を数十年前とは大きく変わってしまった厚木というまちの将来のことを想う場所にしていきます。

この先、厚木で、
どのように「過ごしていくこと」ができるか。
どのように「生きていくこと」ができるか。
この大切なことをみんなで考え、実験し、実現できる場所を新たにつくり出すことを目指します。

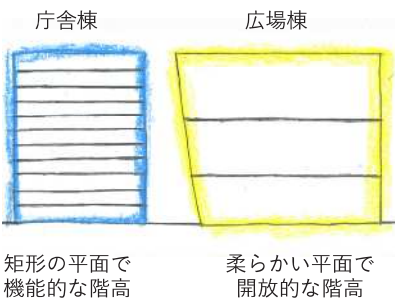
新しい2-2地区のあり方は、
たとえば、みんなが近くにいられる場所になるべきです。
たとえば、みんながそれぞれ一人にもなれる場所になるべきです。
たとえば、みんながそれぞれ違う立場でもいられる場所になるべきです。

庁舎機能と市民活動の場を水平に並列させる

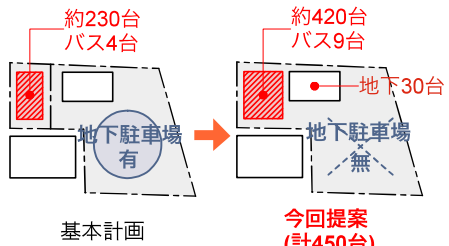


広場棟と庁舎棟は共に市民の施設として立ち並びます。従来の低層部＝市民活動機能、高層部＝庁舎機能という関係性ではなく、それぞれを水平に等価に並べ今までにない「行政」と「市民」の関係性を築きます。

双子の施設のそれぞれの個性



地下駐車場を中止し計画を合理化し、立体駐車場に駐車場を集約する



・立体駐車場は計画範囲を保健福祉センター側に拡げ、8層9段で庁用車・利用者併せて約420台を確保し、保健福祉センター地下改修30台と併せて計450台を確保します。
・立体駐車場に集約したシンプルな計画とすることで利用者に分かりやすい動線とします。計画範囲を拡げることによって大型バスも現状と同等の9台分を確保します。

たとえば、みんなが一同に集える場所になるべきです。
この2-2地区をそういういろいろな可能性がたくさん生まれていく場所にしていきたいと考えています。

この場所を起点に、車に乗る人も、バスに乗る人も、電車で乗る人も、歩く人もさまざまに重なり、結びついていきます。

●あたらしいのあり方の施設に。
これらを実現するためには、今までの複合施設のあり方を考え直す必要があると考えました。従来あるような、市民活動の場を建物の基壇部に配置し、庁舎機能を高層部に分割する関係性は、庁舎機能と市民活動の場の関係の仕方やヒエラルキーが、固定化されてしまう傾向があります。そこで、私たちは、**庁舎機能と市民活動の場を水平に並列させる**ことを提案します。

並列させ、それぞれの機能をしっかりと担保した上で、それぞれの関係のしかたを臨機応変に生み出せるようにしていきます。独立させるべき場所は独立させ、複合させるべき場所は強く結びつけます。独立から複合までのグラデー

ションを自由にさまざまにつくり出すことができるあたらしい複合施設のあり方を生み出します。

●庁舎棟と広場棟を等価に。

庁舎棟と広場棟はともに同様の形式をもつ双子のような存在です。両者とも、同じ高さの建物で単純にフロアを積層するかたちをとり、内側にコアを二箇所設け、外周部を列柱が取り囲む形式とします。バスターミナル側からは、緑豊かなランドスケープのなかで、双子のような2棟の建物が可愛らしく仲良く寄り添うかのように並んでいる姿が眺められます。

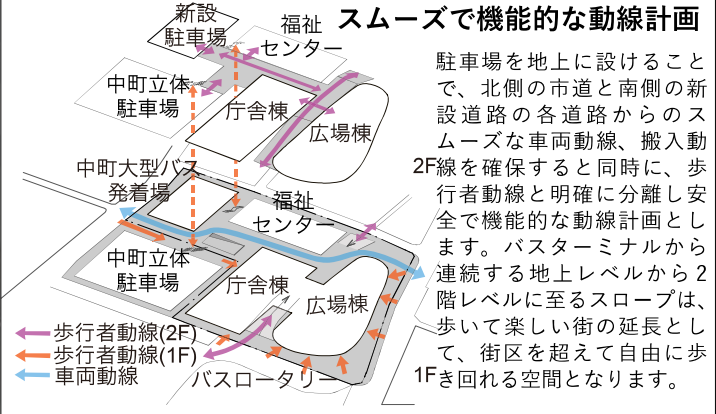
●歩いて楽しいまちに。

庁舎棟と広場棟のあいだには、**結び目としての谷間**ができ、なかちょう大通りからバスターミナルと続く街の散策路の延長となります。この谷間から、市庁舎棟と広場棟、さらには保健センター、その奥の厚木町へと緩やかなスロープや階段ともに連続していきます。また、広場棟の周りにはぐりと歩くことができ、どこからでも自由に施設内にアクセスすることができます。

あたらしい「結び目」が厚木のまちと人をつなぐ



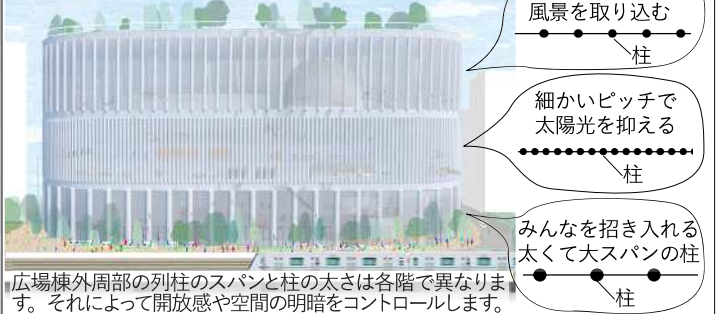
- ・歩いて楽しい「みち」が集まって立体的な広場をつくります。
- ・どこからでも入れる広場棟が、まちと人をつなぎます。
- ・地下道からも直接広場棟にアプローチできます。
- ・通り抜けのスロープが、なかちょう大通りから厚木町まで、まちをつなぎます。
- ・2階レベルで、立体駐車場・保健福祉センターなど、各施設間の歩行者をつなぎます。



小田急線の車窓から



広場棟の各階の個性と構造計画

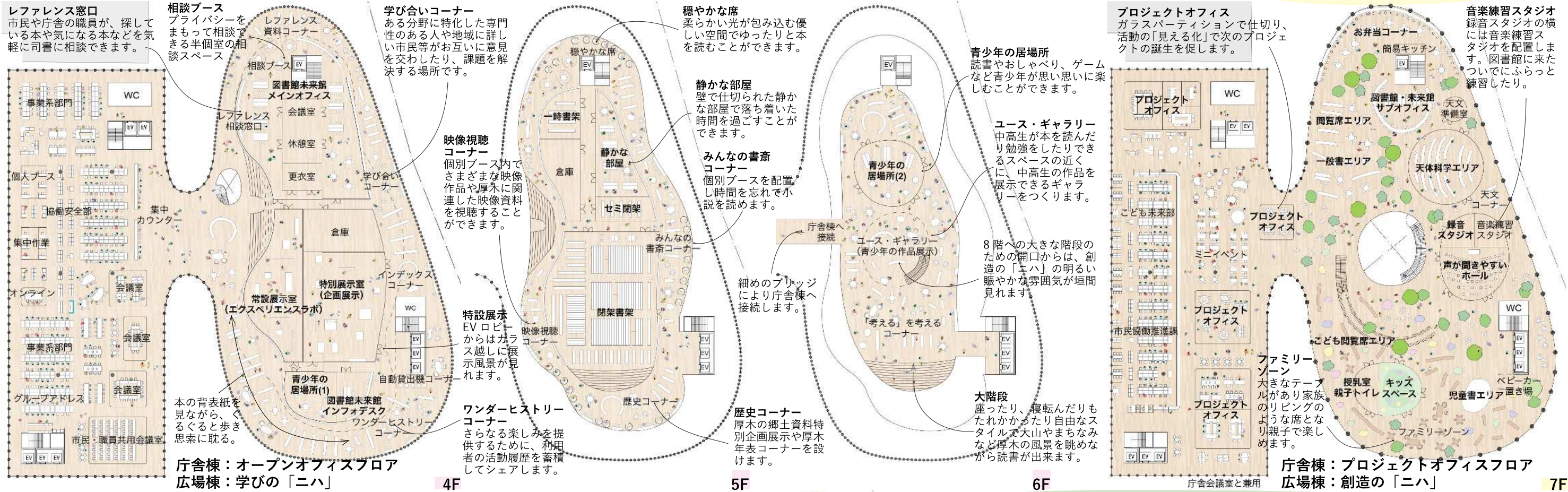


柔軟で開放的な市民の「ニハ」 - 気づき、学び、創造し、育む庭としての図書館・未来館

●「ニハ」を散策するように点在するパヴィリオン／フォリーを訪れる市民活動の「ニハ」としての広場棟は開放的で高い天井高のユニバーサルな無柱空間であり、要求される図書館や未来館の各機能に応じて、大小のパヴィリオン、フォリー（四阿）、家具等が建築内にフレキシブルにレイアウト可能です。それは書架であり、落ち着いた書斎のような小部屋であり、展示コーナーであり相談ブース等です。利用者は庭園を散策するようにその間を巡り、気づき、学び、創造するインスピレーションを得るでしょう。また、図書館や未来館の機能は、気づきの「ニハ」、学びの「ニハ」、創造の「ニハ」、育みの「ニハ」それぞれのフロアーに、混ざり合うように配置されると同時に、各フロアごとに特色の異なる個性的な複合体になることとなります。



●創造の「ニハ」創造の「ニハ」は最も天井高が高く、庁舎棟の8階と特に強く結びつきます。厚木のまちや大山を望み厚木市の風景に包まれるような空間です。図書館・未来館の「創造」を担うにぎやかなフロアになります。プラネタリウムや声が聞きやすいホール、スタジオを中心に、児童書や一般書エリアを備え、利用者が自らのアイデアを実装したり、試したりすることができる活動的な場所として構想しています。館内でさまざまな情報にふれて刺激を受けた利用者自らが、活動の主体となり、仲間と協働したり実践し挑戦するための創造的な空間です。庁舎棟8Fともブリッジによって接続し、新しい能動的な公民連携のかたちも期待されます。



●学びの「ニハ」広場棟の学びの「ニハ」は、庁舎棟の4～7階と強く結びつきます。外周部の柱が密で光や音環境のコントロールされた落ち着いた図書館・未来館の中心的なフロアです。丘状の書架・展示架である大きな棚のパヴィリオンが学びの「ニハ」の中央に配されています。丘状のパヴィリオンの内部にはメインオフィスや展示室、閉架書庫、静かな部屋等、閉鎖性が必要とされる諸室が配されています。庁舎棟の4Fは「オープンオフィス」となります。ブリッジで学びの「ニハ」に直接接続します。市民の活動のレベルが上がっていくにつれて市の担当課とも連携し市民活動が実践的にサポートされる仕組みです。市にとっても具体的な活動やニーズが把握でき相互に情報が行き交います。このように、「資料」や「展示物」を媒介として活動や人が水平に繋がっていきます。また、庁舎棟5～7階も広場棟の学びの庭「ニハ」に直接面するバルコニーや窓等から市民の活動を眺めることができ、また、同時に市民も市職員や国や県の職員の働く姿を眺められます。また、4階や6階はブリッジを介してお互いに行き交います。



●大きな空の下 育みの「ニハ」庁舎棟と広場棟の屋上は、同レベルで繋がりと、育みの「ニハ」として、街と市民の関係を長期的に描くためのプラットフォームです。広場棟の屋上は、厚木の街や大山に沈む夕日、相模川等の自然風景を借景として、じっくりと時間をかけて究めたい研究、植物の育成など、年単位の活動が行われます。よく見かける顔なじみと挨拶を交わしたり、新しくやってきた利用者を使い方を説明していったりするシーンが思い浮かびます。庁舎棟の屋上は、静かな公園のような場所になります。空の下ですぐに落ち着いて気持ちよく読書をし人生について考えたり、また、11階の議会上部に設けられた天窓から、議会の様子を眺め厚木市の未来のことを想います。これらふたつの外部環境が結びつき、長い視点で多くのことを捉えるよう促します。つねに市民によって手入れされている、自分たちの「ニハ」となることを目指します。

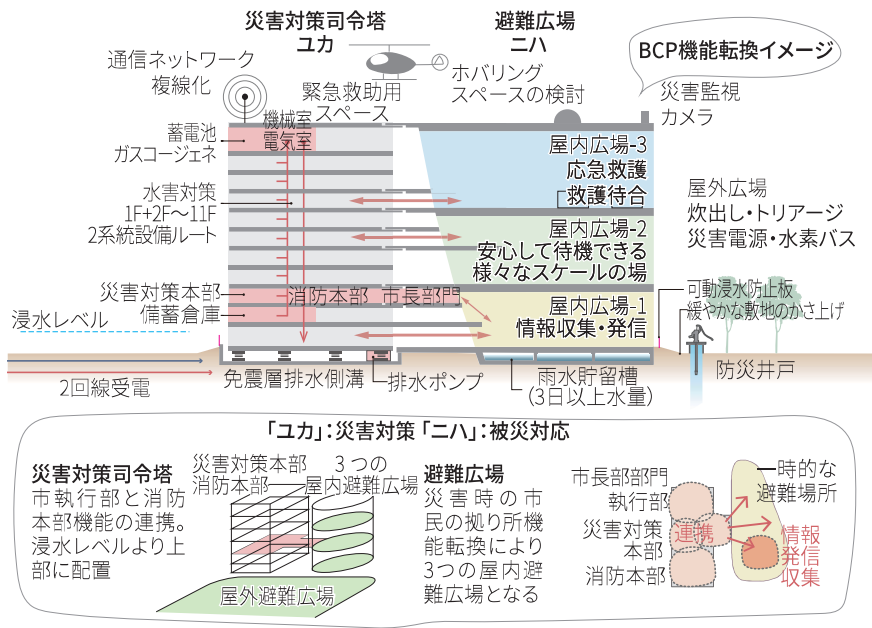
空の下で「育みの庭」から大山をのぞむ

特徴ある2つの屋上庭園

「食べられる庭」で育てた野菜をキッチンスタジオで料理し BBQの庭でみんなで食べたり、工房の前の「つくる庭」で音などを木にせず大胆に工作を行います。実験室前にある観察広場（ピオトープ）では生態系を学ぶことができます。

広場棟の屋上には「つくる庭」や「食べられる庭」などにぎやかな機能を、庁舎棟の屋上には「読書の庭」や議会を眺める庭など静かな機能を配置します。

「ユカ」：災害対策と「ニハ」：被災市民対応の両立
指令塔としての庁舎機能の維持と被災市民対応の両立



感染症対策

- ・庁舎棟、広場棟とも窓から外気を直接取り入れ、積極的な自然通風を行うことで感染症に強い建物とします。
- ・広場棟の大きな気積は感染症対策に有効です。
- ・非接触型のエレベーター押ボタンの導入も検討します。

地域の防災力を育む

- ・図書館で災害情報を収集し防災アーカイブにします。
- ・庁舎・消防本部での災害対策プランに活用し、未来館で見える化を行い防災意識を高めます。

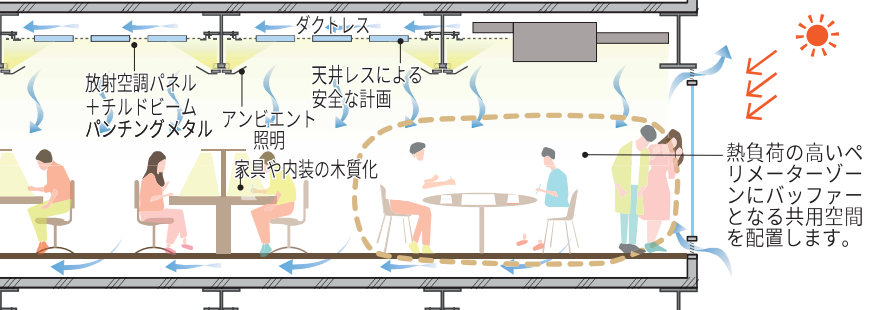
地域環境を活かし、つくる

- ・環境という視点では敷地境界線は存在しないと考えます。微地形を活かし、近傍も含めて地域全体の環境に配慮して計画を行います。

厚木の風を活かす

- ・厚木市は南北方向の卓越風が特徴です。
- ・中間期は卓越風（南）からの風を受けることで建物正面が正圧、側面が負圧となり自然通風が促進されます。
- ・庁舎棟と広場棟間のエコバレーは心地よい穏やかな風が流れます。

庁舎棟の快適な執務環境



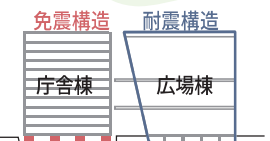
「環境配慮及び維持管理・運営についての考え方」
透過性と経済性をコントロールするセミチューブ構造

鉄骨造による軽量化

構造は鉄骨造とし、軽量化を図ることにより耐震要素、基礎、免震部への負担を軽減します。

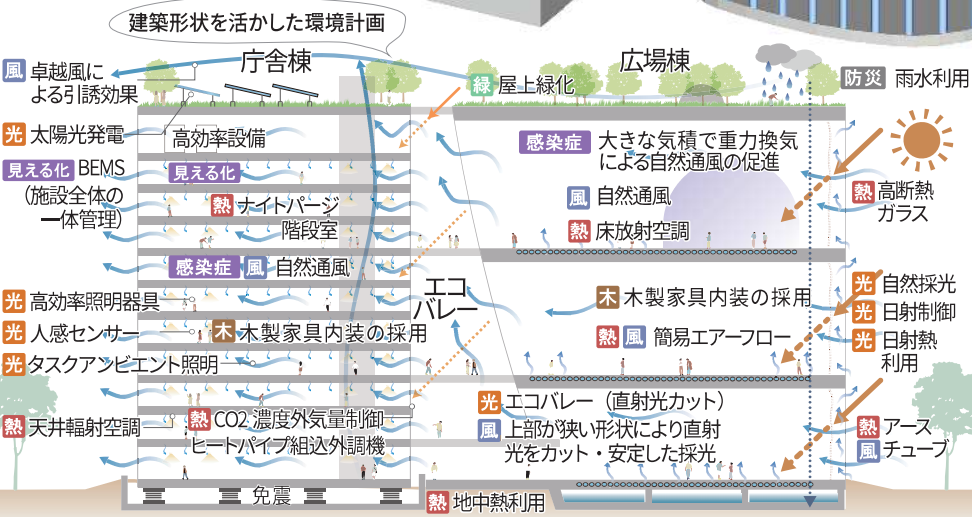
要求性能に応じた構造計画

「庁舎棟」のみを「免震」として防災拠点としての機能を担保し、「広場棟」はインシャルコストの低い「耐震」として災害時の避難所としての機能を担保します。要求性能に応じた経済的な構造計画となります。



合理的なセミチューブ構造

「広場棟」「庁舎棟」とともに外周に柱を列柱状に並べ、内部空間を自由に使えるものにします。階段・エレベーター・シャフトなどにブレースや、庁舎棟については少数の柱を設けて経済性を高める、ラーメン構造の要素を含んだセミチューブ構造としています。

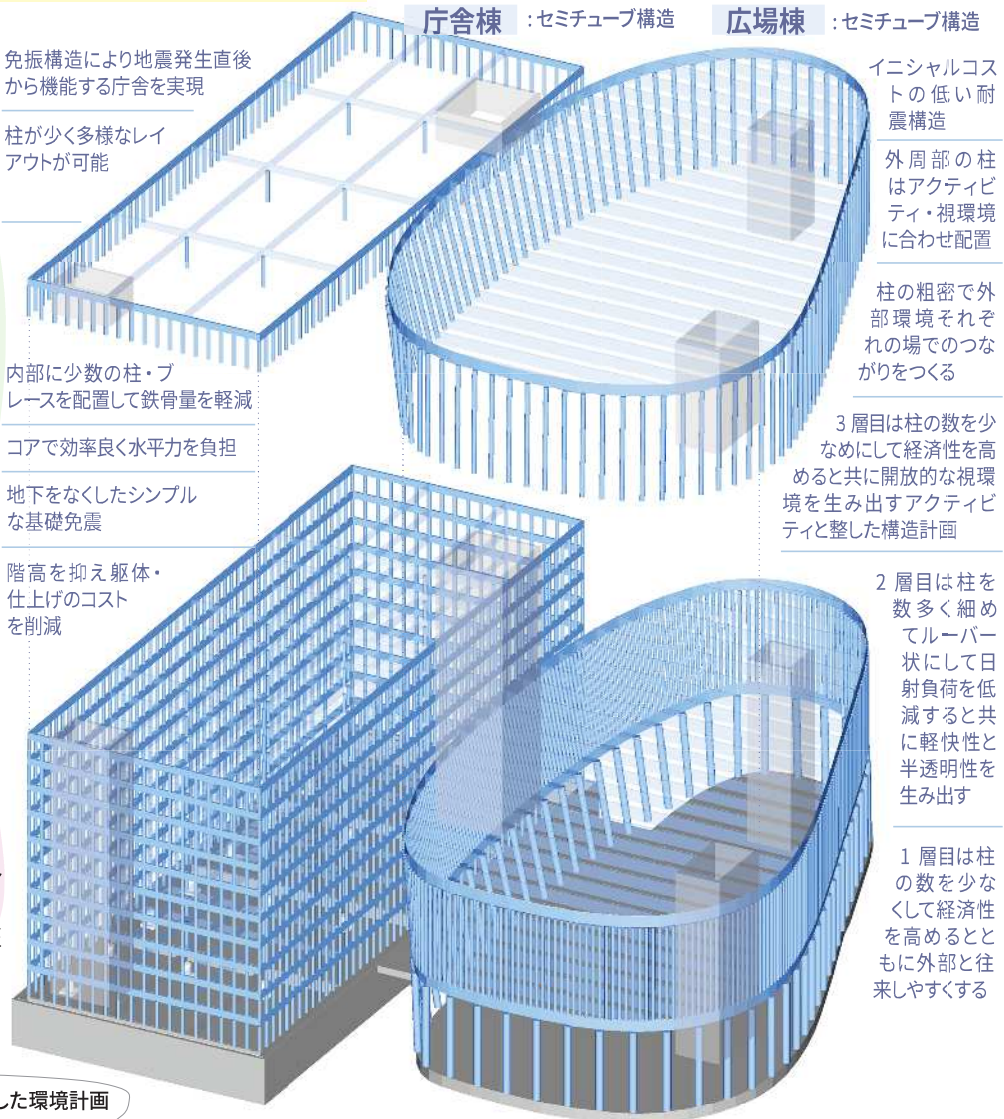


LCCの低減を見据えた計画

- ・維持管理性向上によりライフサイクルコスト(LCC)を低減
- ・提案採用により60年間で約17%低減します。
- ・エネルギーサービス導入によるインシャルコスト削減、維持管理省力化、LCC低減を検討します。

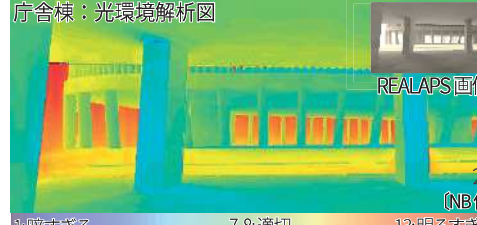
すべての方が快適に使える場所の実現

- ・様々な利用者の多様なニーズに耳を傾けることを第一に、「使いやすい」「使いたい」と思える場所の実現に取り組めます。
- ・様々な世代の職員の働きやすさに配慮します。



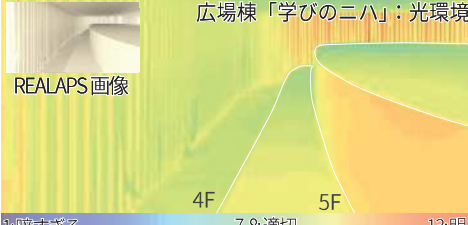
庁舎棟：執務室に最適な安定した光環境

エコバレーを介した優しい反射光 北面および南面から、安定した天空光を室内に導き、執務に適した自然採光を行います。南面は上部が狭いエコバレーの形状により、直射光をカットします。



広場棟：居心地のいいやわらかな光環境

列柱とファブリックにより眩しさを抑え、光が拡散されたやわらかな印象の視環境をつくりまします。特に2層目は、列柱が密に並ぶことで外部からの高輝度の光を抑え、人にも本にもやさしい光環境を創ります。



長く使い続けられる建築にふさわしい環境性能を実現します

